

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：診療率				指標の求め方：在宅当番医日数/休日数									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 2,209	2,209	2,209		2,209	2,209	2,209		2,209	2,209	2,209	2,209		
		実績値 2,247	2,296	2,267		2,280										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 100	100	100		100	100	100		100	100	100	100			
		実績値 100	100	100		100										
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関する 自己分析	自己分析： 市負担金額及び 在宅当番医日数 とも計画値とほ ぼ同数であり、 医師会の集約に より市立病院と 市内開業医が分 担し、一次救急 医療体制の確保 が図られている。 。	自己分析： 医師数割の変動 により市負担金 が計画値を上 回っているが、 医師会の集約に より市立病院と 市内開業医が分 担し、一次救急 医療体制の確保 が図られている。 。	自己分析： 市負担金額及び 在宅当番医日数 とも計画値とほ ぼ同数であり、 医師会の集約に より市立病院と 市内開業医が分 担し、一次救急 医療体制の確保 が図られている。 。	判断理由： 医師会の集約に より市立病院と 市内開業医が分 担し、初期救急 医療が確保され ていることから、 良好と判断 した。	自己分析： 医師数割の変動 により市負担金 が計画値を上 回っているが、 医師会の集約に より市立病院と 市内開業医が分 担し、一次救急 医療体制の確保 が図られている。 。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 各市町が負担する委託料総額のうち、砂川市負担分は空知医師会 を通じ砂川部会へ交付されている。砂川部会では交付された35%を 在宅当番医調整事務及び救急医療啓発事務事業等のため、再度空知 医師会へ納付している。 砂川市における初期救急医療体制が確保されるとともに救急知 識の普及啓発が図られることから。現状のまま事業を継続する。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

[CHECK · ACTION]

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：診療日数				指標の求め方：診療日数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	総 合 計 画 計
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 5,076	5,076	5,124		5,076	5,076	5,076		5,076	5,076	5,076	5,076		
		実績値	5,076	5,071	5,094		5,073									
	成果指標 1 (単位/日)	計画値	365	365	366		365	365	365		366	365	365	365		
		実績値	365	365	366		365									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析	自己分析： 市負担金額及び 診療日数とも計画 値とほぼ同数であり、 中空知圏域において、 年間を通じて休日 及び夜間における 救急医療体制の確保 が図られている。	自己分析： 市負担金額及び 診療日数とも計画 値とほぼ同数であり、 中空知圏域において、 年間を通じて休日 及び夜間における 救急医療体制の確保 が図られている。	自己分析： 市負担金額及び 診療日数とも計画 値とほぼ同数であり、 中空知圏域において、 年間を通じて休日 及び夜間における 救急医療体制の確保 が図られている。	判断理由： 二次医療圏である 中空知圏域において、 救急医療体制が確保 されていることから、 良好と判断した。	自己分析： 市負担金額及び 診療日数とも計画 値とほぼ同数であり、 中空知圏域において、 年間を通じて休日 及び夜間における 救急医療体制の確保 が図られている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 地域住民の医療体制の充実を図るため、事業を継続する。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：診療日数				指標の求め方：診療日数									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 1,094	1,094	1,101		1,094	1,094	1,094		1,094	1,094	1,094	1,092		
		実績値 1,094	1,092	1,096		1,092										
	成果指標 1 (単位/日)	計画値 365	365	366		365	365	365		366	365	365	365			
		実績値 365	365	366		365										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
		総合評価					良好である									
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析	自己分析： 市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	自己分析： 市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	自己分析： 市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	判断理由： 二次医療圏である中空知地域において、小児救急医療体制が確保されていることから、良好と判断した。	自己分析： 市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 二次医療圏である中空知地域において、小児救急医療体制が確保されることから事業を継続する。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	1,246,000	1,246,000	1,246,000	3,738,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	3,738,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	4,984,000	12,460,000
		予算計上額	1,248,000	1,107,000	1,198,000	3,553,000	1,198,000	1,198,000		2,396,000					0	5,949,000
		実績額	1,138,000	1,249,000	1,280,310	3,667,310	1,143,562			1,143,562					0	4,810,872
	事業費合計	計画額	1,246,000	1,246,000	1,246,000	3,738,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	3,738,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	1,246,000	4,984,000	12,460,000
予算計上額		1,248,000	1,107,000	1,198,000	3,553,000	1,198,000	1,198,000	0	2,396,000	0	0	0	0	0	5,949,000	
実績額		1,138,000	1,249,000	1,280,310	3,667,310	1,143,562	0	0	1,143,562	0	0	0	0	0	4,810,872	
事業費予算の内容		旅費 19,000円 食料費 11,000円 交際費 1,218,000円	旅費 29,000円 食料費 11,000円 交際費 1,067,000円	旅費 29,000円 食料費 11,000円 交際費 1,158,000円		旅費 29,000円 食料費 11,000円 交際費 1,158,000円	旅費 29,000円 食料費 11,000円 交際費1,158,000円									
前年度予算との比較 (増減理由)		医育大学及び各専門学校等訪問回数の増加のため増額	コロナ禍における訪問回数の減少における減額	コロナ制限の緩和による対面開催の増加における増額		前年度同額	前年度同額									
実績との比較 (増減理由)		コロナ禍における訪問回数の減少における減額	コロナ制限の緩和による対面開催の増加における増額	求人訪問活動の増（主に消化器内科医招聘による）		求人訪問活動の減（主に医師関係）										

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：求人関連活動数				指標の求め方：医育大学、各専門学校等訪問回数及び求人活動数												
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：採用率（充足率）				指標の求め方：当年度採用数／各年度予算策定時における予算人員												
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計			
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合				
事業 業務 業 評 価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	17	18	18		18	18	18		18	18	18	18					
		実績値	3	14	10		9													
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0						
		実績値	99.6	100.0	100.0		100.0													
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない													
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない													
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている													
		総合評価					普通である													
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校訪問等は出来なかったが、オンラインでの就職説明会については、実施することができた結果、一定程度の成果が見られた。 ただし、看護師が不足している状況であることから、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校訪問等は出来なかったが、オンラインでの就職説明会については、前年に引き続き実施することが出来た結果、一定程度の成果が見られた。 ただし、看護師が不足している状況が引き続いていることから、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析：看護師を対象とした就職説明会については開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することによって実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続していく必要がある。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動指標は伸び悩んだが、成果指標については概ね達成することができた。オンラインでの就職説明会により、採用に繋がったケースもあり、一定程度の成果を上げることができた。また、情報共有ツールを活用した求人情報の発信による求人活動を行うなど、一定の成果があったことを踏まえ「普通である」と判断した。	自己分析： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することによって実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	判断理由： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	自己分析： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。	判断理由： 看護師を対象とした就職説明会については対面式及びオンラインで複数回にわたり開催することができた結果、一定程度の成果が見られた。他ではオンラインによる求人活動等が主流となりつつあるが、対面式で実施することができ、当院を知ってもらい取り組みが実施できる。看護師以外の職種についても引き続き求人関連活動を継続して行く必要がある。						
	今後の方向性					現状のまま継続														
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 「求人関連活動数」については、近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、医育大学及び専門学校等訪問回数が落ち込んだものの、情報共有ツール（InstagramやFaceBook）を活用した求人情報発信の強化を図った。また、職員向けにデジタルサイネージでの院内周知や市ホームページにおいても継続した求人活用を行っている。令和5年度からは、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、各種学校訪問回数も回復していくものと考え、コロナ禍以前の取り組みを実施していくことから、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：修学資金貸与者数	指標の求め方：学年別の修学資金貸与者
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：砂川市立病院への就業者数	指標の求め方：修学資金貸与者の砂川市立病院への就業者数

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/人)	計画値	25	25	26		26	25	25		25	25	25	25		
		実績値	25	24	23		23										
	成果指標1 (単位/人)	計画値	21	24	27		28	26	26		26	26	26	26			
	実績値	16	17	23		19											
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
		総合評価					普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 計画値に対し、就業者数の実績は届かなかったものの、助産師は概ね確保された状況。 看護師については不足している状況ではあるが、卒業生の市内就職促進対策・人口減少対策の一助として有用。 引き続き、看護師確保に向けて修学資金貸付制度の利用促進及び就業者数増加に向けたPRを継続していく。	自己分析： 計画値に対し、貸与者数及び就職者数の実績は届かなかったものの、前年とほぼ同水準であり、助産師は確保された。看護師については不足している状況ではあるが、卒業生の市内就職促進対策・人口減少対策の一助として有用であると考え。引き続き看護師確保に向けて修学資金制度の利用促進及び就業者数増加に向けた取り組みを継続していく。	自己分析： 計画値に対し貸与者数及び就職者数の実績は届かなかったものの、就職者数は前年度を上回った。病院機能・規模等の見直しに伴い、看護師及び助産師数の適正化を図る必要があることから、計画及び指標等の見直しについて検討を行う。	判断理由： 修学資金貸与者数については、ほぼ計画値と同水準であり、一定程度達成することができた。特に助産師確保に繋がれたことは評価することができる。また、就業者数については、計画値を大きく下回っているが、附属看護専門学校学生への貸与者数に対する就業者は一定程度、達成することができていることを踏まえて、「普通である」と判断した。	自己分析： 計画値に対し貸与者数及び就職者数の実績は届かなかった。今後においては、病院機能・規模等の見直しに伴い、看護師及び助産師数の適正化を図る必要性があることから、計画及び指標等の見直しについて引き続き検討を行う。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 修学資金貸与制度は看護師が不足している状況において、看護師確保に向けた有用な制度である。また、修学資金免除制度による卒業生の市内就職促進対策・人口減少対策の一助になっていると考える。 令和5年度から、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、PR活動がコロナ禍以前のように回復していくものと考え、引き続き看護師確保に向けた修学資金制度の利用促進及び情報発信を実施していくことから、「現状のまま」とした。				R8：				R10：							

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(单位: 円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：医療機器購入ヒアリング数	指標の求め方：ヒアリングの回数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：充足率	指標の求め方：当年度購入数／予算策定時における予定数

				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1		
		実績値	1	1	1		1										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0			
		実績値	117.0	118.0	120.0		100.8										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)						達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)						上がっている									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)						少し上がっている									
		総合評価						良好である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 計画値に対し実績が高い理由は、新型コロナウイルス感染症対策強化に伴い予算外の医療機器を緊急的に整備したことによる他、病院改築時に購入した機器が耐用年数を超え修理不能により更新したものである。今後についても安全かつ高度医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析： 計画値に対し実績が高い理由は、高度医療機器の整備や血管造影X線診断装置の更新及び予算外の医療機器を緊急的に整備したことによる他、病院改築時に購入した機器が耐用年数を超え修理不能により更新したものである。今後についても安全かつ高度医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析： 計画値に対し実績が高い理由は、高度医療機器の整備や全身用X線C Y装置の更新及び予算外の医療機器を緊急的に整備したことによる他、病院改築時に購入した機器が耐用年数を超え修理不能により更新したものである。今後についても安全かつ高度医療機器の整備を計画的に推し進める。	判断理由： 高度医療、救急医療及び特殊医療に対応しつつ、地域医療の特殊性を的確に判断し、計画的に医療機器の整備を進めている。	自己分析：計画値に対し実績が高い理由は、消化器内科医師の増員により、内視鏡関連機器を増設し予算外の医療機器を緊急的に整備したことによる他、病院改築時に購入した機器が耐用年数を超え修理不能により更新したものである。今後についても安全かつ高度医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性						現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 医療機器を整備することは、地域医療・患者サービスに直結することから、今後についても継続的な整備を計画的に進める必要がある。また、地域医療の特殊性を的確に判断し、必要な医療機器の整備を推し進めなければならないことから、継続する事業と考える。				R8：				R10：					